

掲示版
こ〜じのう 第3号

うっくん



発行所 (社福)千葉県身体障害者福祉事業団
千葉県千葉リハビリテーションセンター
発行責任者 高次脳機能障害
相談支援体制連携調整委員会
委員長 吉永 勝訓
〒266-0005 千葉市緑区誉田町 1-45-2
TEL 043-291-1831 (代)内178
発行日 2007年11月15日

も く じ

	掲示版 第3号	
巻頭	高次脳機能障害者への支援について	1
報告	全国の動き	2~5
報告	プロジェクト・班だより	6
千葉県社会	報告	6
参加報告		7
こんにちは!		7
まめ知識コーナー		8
インフォメーション		8
編集後記		8

高次脳機能障害者への支援について

ちばけんけんこうふくしふしょうがいふくしか
千葉県健康福祉部障害福祉課
かちょう あんどう こういち
課長 安藤 公一



高次脳機能障害については、その障害特性が医療・福祉関係者に広く理解され、適切な支援体制が整備されていくことが必要であると考えております。

高次脳機能障害者への支援につきましては、県においては、モデル事業時代（平成13年度～17年度）から、千葉リハビリテーションセンターに事業を委託しており、平成18年度からは高次脳機能障害支援普及事業を行っております。

平成18年度は、引き続き千葉リハビリテーションセンターに事業を委託し、相談・支援を行ったほか、一般向けの啓発パンフレットも作成・配布しました。

平成19年度は、千葉リハビリテーションセンターに加え、地域の支援拠点機関として、初めて東葛北部地区の旭神経内科リハビリテーション病院に事業を委託し、支援の充実を図っております。

県としては、平成19年3月に策定した千葉県障害福祉計画において、高次脳機能障害支援普及事業は、障害者自立支援法の県地域生活支援事業の中に位置付けられ、推進することとしております。

高次脳機能障害者の支援については、手探りの部分も多々ありますが、県としては、地域にミニ千葉リハのような支援拠点の旗が立つよう努力してまいりますので、当事者・御家族・関係機関の皆様も引き続き御協力をお願いいたします。

1
報告

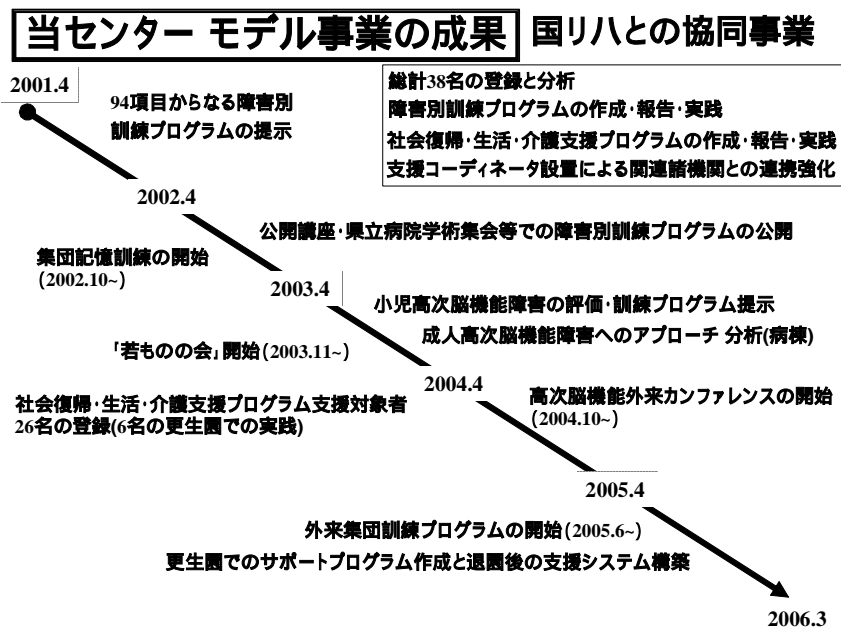


平成 19 年度厚生労働科学研究補助金
「高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究」
関東甲信越ブロック・東京ブロック合同会議報告



日時：平成 19 年 7 月 30 日
場所住友不動産新宿オークタワー 1 F 会議室
出席者：国リ八(中島八十一：主任研究員)
東京都 7 名(障害者施策推進部精神保健・医療課、都立心身障害者福祉センター)
茨城県 3 名(障害福祉課、県立リハビリテーションセンター)
栃木県 2 名(障害福祉課、とちぎリハビリテーションセンター)
群馬県 3 名(障害政策課、県こころの健康センター)
埼玉県 4 名：ブロック責任県(障害福祉課、総合リハビリテーションセンター)
千葉県 2 名(障害福祉課、千葉リハビリテーションセンター)
神奈川県 3 名(総合リハビリテーションセンター)
新潟県 2 名(障害福祉課、県精神保健福祉センター)
長野県 1 名(障害福祉課)

議題 1 . 千葉県千葉リハビリテーションセンターにおける高次脳機能障害者支援の取り組みについて 千葉県支援コーディネーター 太田令子

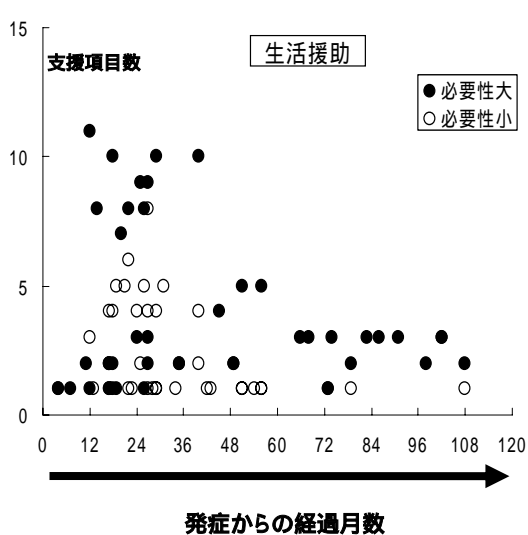
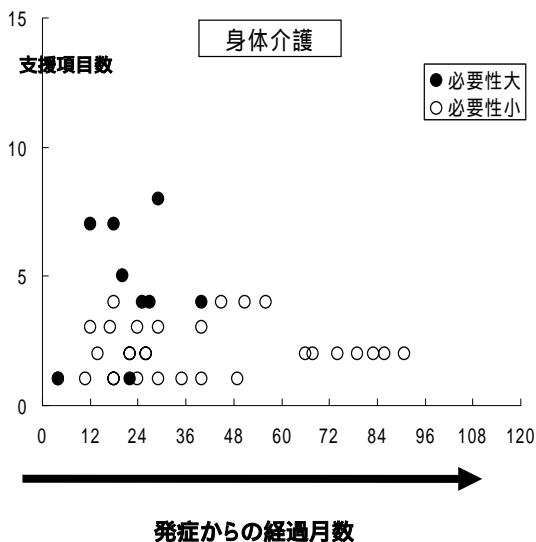


モデル事業の期間に実施した主な事業を、経時的に上記に示した。ここでは、登録作業と、支援プログラムの作成およびその実施を、散発的にはあるが実施してきたこと。とくに当センターには肢体不自由児施設があり、そこではこれまでも高次脳機能障害の児童に対する支援を行ってきた経験を生かし、全国レベルで積極的に登録してきたことを報告。またモデル事業参加に伴い展開してきた諸調査や事業を県民に広報し、高次脳機能障害への理解を深める活動を転化してきたことを報告。またモデル事業参加に伴い展開してきた諸調査や事業を県民に広報し、高次脳機能障害への理解を深める活動を転化してきたことを報告。

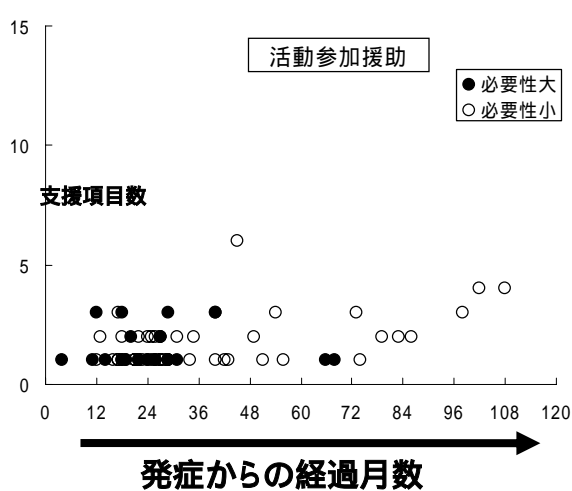
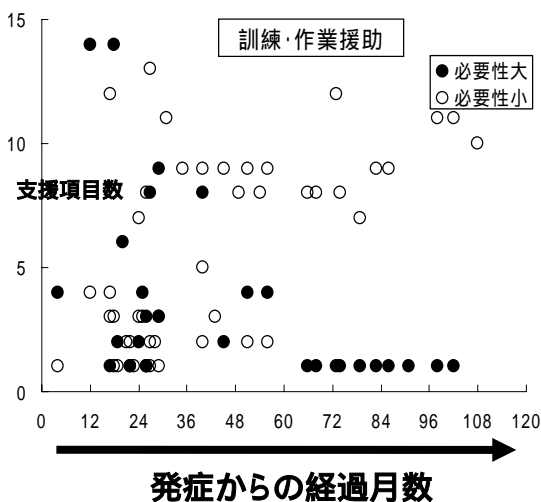


発症後の経過年数によって
支援の質・量が変わっている項目例

千葉県前期モデル事業登録状況から

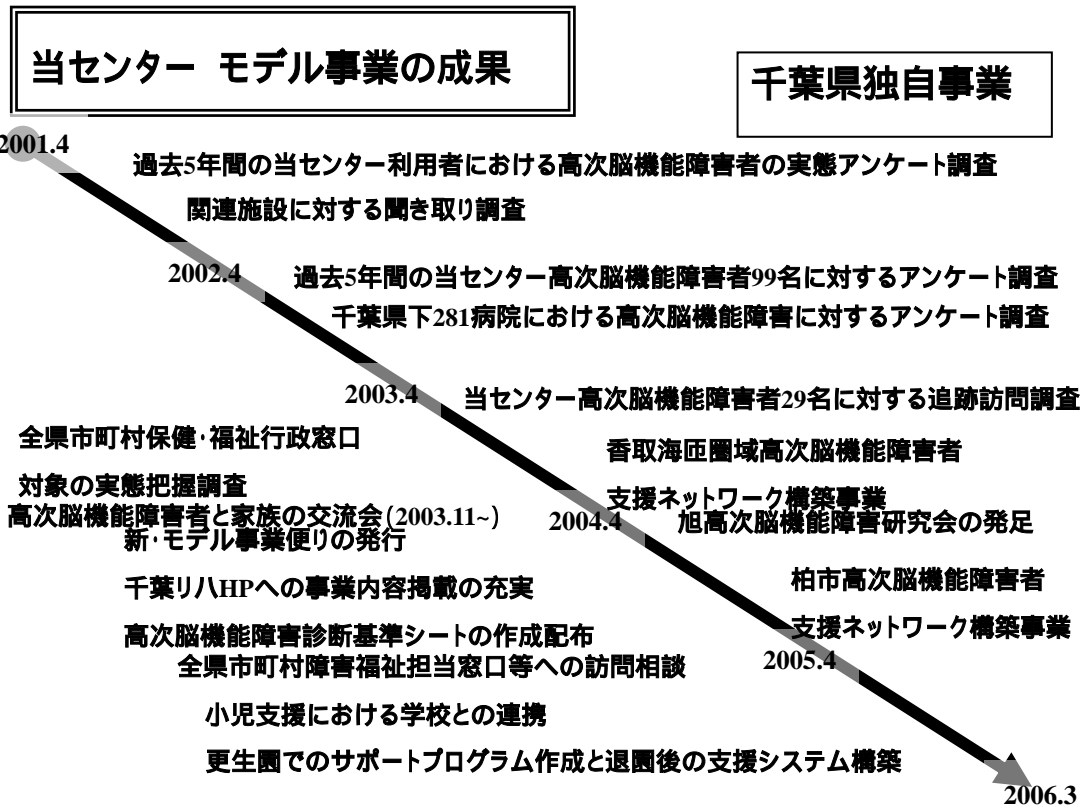


発症後の経過年数によって
支援の質が変わっている項目例



国リハに登録情報として報告した内容を、再度千葉県登録者に限って再検討した結果、支援の質や量が変わるのは、発症後3年目であることが解った。

次に、最も遅れている生活支援に関する基礎データを把握することを目的に、主としてセンター利用者の生活実態を調査した。

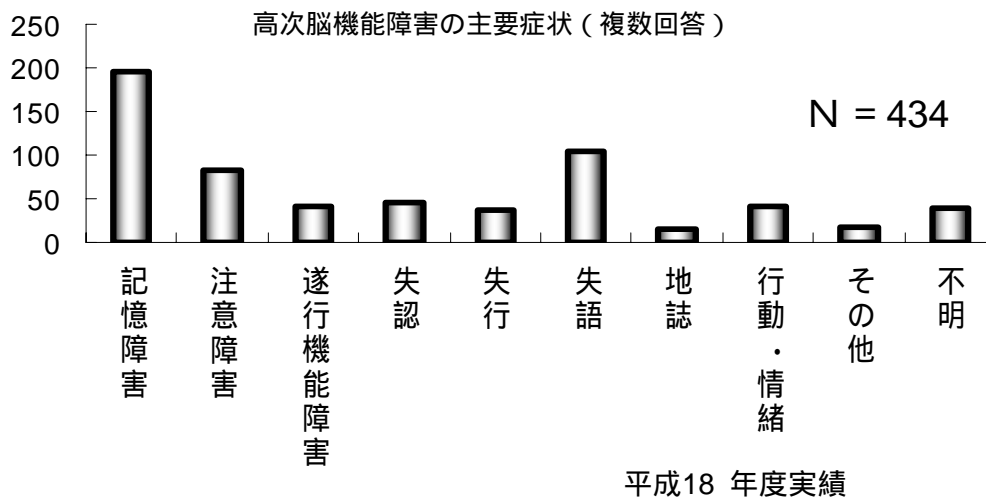


その中で、一番身近な相談窓口であるはずの市町村で、高次脳機能障害という名称すら知られていないことは、とても辛いという当事者・家族の声が上がってきた。それを受けて障相センターの身体および知的相談担当者として協力して、モデル事業で確定された高次脳機能障害の診断基準を、広く県内の市町村担当窓口へ周知する活動を行った。小児に関しても、更生施設に関しても、後期モデル事業では、地域との連携システムの構築に手を付け始めた。

平成 18 年度の支援センターとしての実績を、高次脳機能障害の種別に分類したものをグラフに示す。相談として持ち込まれる場合は、記憶障害がこれまで同様トップであった。しかし、生活上最も困難なのは、社会的行動の障害や感情のコントロールの困難さであるが、直接の相談ではこうした特徴が最初に訴えられることはまだまだ少ない。

その他、千葉県の支援拠点機関である現在の千葉リハビリテーションセンター各プロジェクトや班の活動を報告した。

ワンストップで受けた相談・紹介者の高次脳機能障害内訳



議題2．当事者や家族会の活動状況について

「関東甲信越地域の当事者家族会活動」..... NPO法人 日本脳外傷友の会理事長

東川 悦子

はじめに

1．日本脳外傷友の会の沿革

- 1997年4月 「脳外傷友の会みずほ」設立(名古屋)
- 10月 「脳外傷友の会ナナ」設立(神奈川)
- 1998年 「脳外傷シンポジウム」開催 (於横浜ラポール)
わが国初の頭部外傷シンポジウム
- 1999年 アメリカ視察
- 2000年 日本脳外傷友の会結成(3団体が参加)
- 2006年 NPO認証
- 2007年現在 正会員団体 18
会員総数約3000人(当事者数)
準会員団体 13

2．関東・甲信越ブロックにおける当事者・家族の会の設置実態

- 当事者・家族の会がある自治体：新潟、長野、埼玉、茨城、千葉、東京、神奈川
- 準備中の自治体：栃木、山梨
- 小児関係の団体：アトム会(神奈川中心)、ハイリハキッズ(東京・千葉中心)、
380ネット(埼玉中心)

3．全国に当事者・家族の会をせっちするために

- 現在10の県で、当事者・家族の会が全くない：青森、秋田、山形、福島、栃木、山梨、福井、和歌山、香川、徳島
- 「高次脳機能障害者支援・普及の促進を目指すセミナー」開催を計画中

	茨城 県	栃 木 県	群 馬 県	埼 玉 県	千 葉 県	東 京 都	神 奈 川 県	新 潟 県	山 梨 県	長 野 県
事業実施	+	-	+	+	+	+	+	+	-	+
支援拠点機関	-	-	-	+	+	+	+	-	-	+
支援コーディネーター	+	-	-	+	+	+	+	-	-	+

それぞれの自治体で、抱えている問題や課題は異なっており、一律に事業転化していくことは懇案である。各自治体が持てる条件を最大限駆使して、それぞれの事業展開を進めていくことが必要との確認がされた。

*この会議後、9月9日、独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業として、NPO法人日本脳外傷友の会、WAM特別助成金事業実行委員会共催、NPO法人チャレンジド・コミュニティ」「とちぎ脳卒中者と家族の会・かけはし」「NPO法人ノーマライゼーション研究会」の協力の下、「栃木県障害福祉計画(第一期計画)」にある「高次脳機能障害者支援センター(仮称)」の設立をめざして高次脳機能障害を考えるつど とちぎでの家族会・患者会づくりと社会的自立支援をめざして が開催されました。なお栃木県、宇都宮市、独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」の後援がありました。この活動をきっかけに、栃木県も高次脳機能障害者支援普及事業実施に向けて動き始めています。
(支援コーディネーター 太田)

2 報告



袖ヶ浦特別支援学校
岩佐先生



小児高次脳リハビリプログラミングプロジェクト班
毎年恒例となりました『小児高次脳家族交流会』
を10月12日にセンター研修室にて行ないました。
当日は、高次脳機能障害のお子さんのご家族6
名様とセンターのスタッフ（医師、理学療法士、
作業療法士、言語聴覚士、心理発達治療士、看護
師、ソーシャルワーカー、児童指導員）が参加し
ました。
交流会は15時半からスタートし、第一部は袖ヶ浦
特別支援学校の岩佐美奈子先生より「特別支援コ
ーディネーター制度」についてお話をしていただ
きました。岩佐先生には当リハセンター愛育園を
退園して地域の学校に戻るお子さんの支援など、
多くの児童・ご家族に関わっていただいております。
地域の普通学校に通っているお子さんの保護
者からでも相談いただければ支援ができるので、
まずは「お電話で相談下さい。」とおっしゃって
おりました。ご相談いただければ、お子さんに必要
な支援をご家族と一緒に考えアドバイスいただけ
ます。また保護者の方が希望されれば地域の学校
に向いてお子さんの支援について具体的に教師
に助言して下さるそうです。

プロジェクト・班だより

このコーナーでは
千葉県高次脳機能障害支援センターの活動を時報告していきます

千葉懇話会報告

11月6日に行われた懇話会の簡単な報告をさせていただきます。スタッフ交えて62名の参加をいただき、積極的なディスカッションが展開されました。

言語聴覚士や理学療法士、作業療法士、心理士をはじめとした医療機関関係、就労支援機関関係、行政、施設、ご家族など様々な立場から参加していただき実施できました。より詳細な報告は、次号にて報告させていただく予定です。



所属機関別	参加人数
病院	22
施設	2
就労支援	5
行政	3
家族会	1
その他	9
合(スタッフ除)	42

30分ほどの講話と質疑応答後は、第二部懇話会です。ご家族は実際に現在の生活で困っていることなどについて、他の方に質問したりアドバイスされたりとご家族同士で体験談を交えてお話しされ、ところどころで専門スタッフからもアドバイスをさせていただきました。
最後に、ご家族から家族同士で連絡をとることができたらとの提案があり、ご希望の方で連絡先の交換をしていただくことになりました。交流会という形でお集まりいただく機会は多くはとれず、時間的にも制限がありますので、交流会の場からご家族の関係を広げていただくのはすばらしいことだと思っております。今後小規模ながら交流会を継続していきたいと思っております。
(千葉リハ小児高次脳 荒井)

こ~じのう掲示版ではご意見、ご感想、情報をお待ちしております！お送り頂いたものは掲示版に役立てていきたいと思っております。宛先メールアドレス kouji@chiba-reha.jp



参加報告

日本脳外傷友の会 第7回 全国大会参加して

9月28日(金)と29日(土)にテーマを「私たちは働きたい、この街で暮らしたい」とした「日本脳外傷友の会第7回全国大会 in 2007」が滋賀県大津市の琵琶湖グランドホテルで開催されました。

私は、29日の大会に参加させていただきました。「私たちは働きたい、この街で暮らしたい」をテーマに、高次脳機能障害者の就労社会参加の支援をどのように構築していくのかという視点で講演やシンポジウム等が構成で行われました。

たくさんの方の参加者で48名だったそうです。ご本人たちやご家族たちが多く参加されている場に我々も共に参加をし、ふだんの相談などは違った形で皆様の意見を多く聞くことができ、また支援側が取り組んでいることに対する意見をいただく場でもあったりして、とても貴重な場だと感じました。

そして、自分たちの体験による気持ちを伝える場にもなり、事故や病気などから助かった命を大切にしながら、今を一生懸命に過ごしている姿は、心に響かされたものでした。目に見えない障害で、支援体制もまだまだこれからという段階である高次脳機能障害に対する支援としては、家族会等との連携を持ちながら、いっしょに取り組んでいくことが大切であることをあらためて認識させられました。

全国支援拠点機関 高次脳機能障害相談支援センター

コーデイネーター情報交換会に参加して

日本脳外傷友の会 第7回 全国大会にあわせて高次脳機能障害相談支援コーデイネーター情報交換会が開かれました。

この情報交換会は、NPO 法人日本脳外傷友の会が主催となり、全国大会への参加も含めて、当事者家族のニーズ現況を理解してほしいという思いから、開催に結びつけてくださったものでした。

それぞれのところの取組みについての報告内容以上に、各支援コーデイネーターと直接顔を合わせて話をする場を持つことができるのは大変有意義なものでした。全国各地の支援コーデイネーター同士、お互いに顔の見える関係づくり(ちよつと聞くことができるような関係)。こつしたことは、とても大切なことだなどと感じました。他の支援コーデイネーターの動きを学ぶこともあるし、千葉以外の方の相談の時もあるのです、我々がその地域のコーデイネーターの顔を知っていて紹介していくことができることは、相談される当事者家族の方にとっても安心できることにつながると思います。

この情報交換会も継続して行っていくこととなりました。また来年、より内容の濃い報告ができるよう取組みたいと思います。

(千葉県八地域連携部 森戸)



日本脳外傷友の会第7回全国大会の様子(滋賀)

こんにちは!



外部団体・市町村で取り組んでいる様子を紹介していきます

ハイリハちば 高次脳機能障害若者の会

「ハイリハちば」は頭部の外傷や脳血管障害などによって脳を損傷し、後遺症として、記憶障害・注意力障害・自覚性の低下・失語症・失認症・失行症などの高次脳機能障害を持った若者を中心に活動しています。

ボランティアスタッフ(県内の専門職ST・OT・心理等)や学生ボランティアとともに、偶数月の第3日曜日に、会員が集まり、定例会を開いて会員同士の交流や情報交換を行っています。当会では、一緒に楽しい時間を過ごし、会員達から楽しく活動できることを目的としています。今年度に入ってから活動を紹介します。(HPには写真も載っていますよ)

<http://www.geocities.jp/hairihachiba/>

第14回 4/15 「パーベキューでもしませんか?」

第15回 6/17 「葛西臨海公園に出掛けましょう」

第16回 8/19 「かき氷を食べながらおしゃべりをしましょ」

8月は、本格的なかき氷機をレンタルし、用意したゆであずきやフルーツなどのトッピングをほどこしたかき氷とおしゃべりを楽しみました。毎回当事者に加えて、家族の参加もあり、家族は家族同士で情報交換の場を持っています。

活動場所は、京成線谷津駅近くの谷津公民館の一室を借りて行うことが多いですが、陽気の良い季節を中心に、お出かけ企画を行っています。(千葉県八心理発達科 大塚)

《問い合わせ》 千葉県八心理発達科(内線265)あるいは君津中央病院言語療法室 0438-36-1071 までご連絡ください。



こちらでは、障害に焦点をあてた中での生活で使える訓練をまめ知識として掲載していきます

今回は記憶障害についてのお話です。記憶の問題について簡単に解決できる方法はありませんが、記憶障害をもった方が生活しやすくする方法はたくさんあります。ひとつは記憶の力だけを使って思い出す場面を減らすよう、環境を調整することです。たとえば、眼鏡や新聞といった身の回りの物をどこに置かあらかじめ決めておいて、必ずそこに置く、使ったら戻すといった習慣をつけることです。また、決まった日課をつくるというのも、記憶障害を持った方にとって、何をやるのかわからないといった混乱を回避する有効な方法となります。日課を書き出して目につくところに貼っておき、確認できるようにしておくのと良いでしょう。もうひとつは記憶障害をもった方が利用できる記憶の補助的なアイテムを活用することです。カレンダーや手帳、携帯のスケジュール機能といったものが代表的です。大事なことは、記憶障害を持った方が『どこ』を見れば自分にとって必要なものが見つかり、必要な情報が手に入るのかを明確にしておくことです。

心理発達治療士 稲月幸子

インフォメーション・おしらせ

information

東葛菜の花 高次脳機能障害者と家族の会 1月例会・勉強会

日時 2008年1月27日(日) 13:30-15:30
会場 たんぽぽセンター
柏市柏下135-1(JR北千駅南口徒歩10分またはバス「慈恵医大」下車徒歩3分)
参加費・事前申し込み 不要
内容 「言語障害について」講師：四方田博英氏
問い合わせ先 世話人 綿貫吉治 fax04-7174-3998
中核世帯生活支援センター「あいネット」 04-7165-8707
fax04-7165-8709

第4回高次脳機能障害 リハビリテーション講習会

日時 2008年2月2日(土) 13:00-16:00
会場 美浜文化ホール
〒261-0011 千葉市美浜区真砂5-15-2
参加費 無料 定員 350名
内容 支援ネットワークの構築の現状と課題~生活を変える身近な行政・福祉・医療の連携~
問い合わせ先 千葉県千葉リハビリテーションセンター地域連携部 地域支援室
043-291-1831(代)内線182

編集後記

自分でもビックリ、「まだまだ続く！ワンモアセット」4ヶ月ほど続き筋力アップ。続ける必要があるの？と自問自答しながらも、わけのわからぬ「やらなきゃ」という思いにとらわれて・ついスタートする私。こんなふうが続くことってありませんか？そしてふと気づくといつの間にかやめてしまっているなんて事が・・・さて、この掲示版は今年1月にスタートし、臨時号を含めて1年間で4回発行できました。編集担当のYさんをはじめとした皆さんの協力のおかげです。少し早いですが、今年1年間ありがとうございました。来年は、より充実した内容と定期的な発行を目指して(M)

今年も残すところ、1ヶ月半となりました。街には、気候に似合わずクリスマスイルミネーションが浮いているのは温暖のせいでしょうか・・・一年を振り返って、流行したものと例えば、ピリースキャンピングでしたね。キャンプに入隊してすぐ脱退した人を何人も横目で見てきましたが、編集長はまだ入隊しているのでしょうか？さて、今回の掲示版は予定を遙かに越えやっとなら行きました。長らくお待ちさせてすみません。編集長のお尻に？かじりつき、かじってかじって今回の発行となりました。来年も、こりずにかじって情報をみなさんに提供していきたいと思えます。(Y)

